

## シンポジウム報告②

## 第8回アジア・大洋州畜産学会議

清水 弘

北海道大学農学部, 札幌市北9西9 060

第8回アジア・大洋州畜産学会議は、開会式に常陸宮殿下並びに妃殿下のご臨席と殿下からのお言葉を賜り、日本学術会議並びに社団法人日本畜産学会の主催で平成8年10月13日(日)から18日(金)の6日間、千葉市幕張メッセ国際会議場並びにOVTA(財団法人海外職業訓練協会)において開催された。

アジア・大洋州畜産学会議は、温帯から熱帯・亜熱帯に位置して、農業条件・社会経済条件を異にする国々の畜産研究者が活発な討論を通じて、家畜による食糧など生産技術の一層の向上・発展をはかり、広く人類の福祉向上に貢献することを目指しています。併せて、アジア・大洋州の特性を生かした持続的家畜生産のための研究・技術情報の発信の場となることを目的として開催されている(第8回アジア・大洋州畜産学会議趣意書)。

第一回大会は1980年にマレーシアのクアラルンプールにおいて開催され、それ以来2ないし3年毎に開催されてきている。今回第8回会議は「人類福祉のための持続的家畜生産を目指して(Partnerships for Sustainable Livestock Production and Human Welfare)」を主テーマに、招待基調講演、シンポジウム、ワークショップ、一般講演、テクニカルツアー、公開講演会の内容であった。

基調講演では次の8氏による講演があった。

C.Chantalakhana (Thailand); Role of livestock in enhancing human welfare in Asia and Pacific region.

Soeharto Pr.(Indonesia); Partnership to improve small holder productivity.

C.Devendra (Malaysia); Present status of research and development and institutional consideration for animal production systems in Asia-Pacific region.

S.Jalaludin (Malaysia); Contribution of AAAP to the development of animal production in Asia and Pacific region.

C.B.Singh (India); Building sustainable farming systems: economic and policy dimensions in the Asia and Pacific region.

H.A.Fitzhugh (Kenya and Ethiopia); World agenda of livestock research in developing countries with special reference to Asia.

J.Copland (Australia); Australian trends in sus-

tainable agriculture and new partnership in Asia.

K.Kainuma (Japan); Japan's role in developing sustainable agricultural production and enhancing partnership in Asia and Pacific region.

シンポジウム, ワークショップ, サテライト シンポジウム等は次のテーマで開かれました。

## ○シンポジウム

- I. 家畜排泄物の循環システムと新方式の開発
- II. 家畜繁殖とバイオテクノロジー
- III. 牛乳ならびに乳製品の生理機能
- IV. 小規模群で構成されるアジア在来大型家畜集団の育種システム
- V. 家畜の栄養の改善及び飼料資源の有効利用
- VI. アジアに於ける複合型畜産
- VII. 家畜生産と環境管理
- VIII. 国際化が進む世界貿易体制下におけるアジア・大洋州の畜産業の展望

## ○ワークショップ

- 1) 馬の栄養と飼養
- 2) アジア大洋州地域における遺伝資源情報の利用
- 3) 哺乳類におけるゲノムデータベースの構築とその利用
- 4) 温帯環境と家畜の生理

## ○サテライトシンポジウム

- 1) 人と動物の為の保存生物学(10月11~11日;和歌山)
- 2) 反芻動物のルーメン微生物, 消化, 生産性(10月20~21日;京都)
- 3) アジア・大洋州における飼料・栄養学研究の進展と家畜飼養基準(10月20~21日;筑波)

## ○その他; コングレスツアー, レディースプログラム, ティーセレモニー

発表演題数は651題であり、会議への参加者は海外30ヶ国からの235名を含め、1,027名とこれまでの最大規模の会議であった。

なお、今回の第9回畜産学会議は2000年5月15日~19日にオーストラリアのシドニーで開催されることが決まりました。

最後に、この大会の成功のために、会議に参加ください、精神的ならびに財政的にご支援いただき、さらに関係機関・団体へのご寄付の依頼にご協力頂いた北海道畜産学会ならびに関連団体等の皆様に心から感謝申し上げます。